

intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver.7.2

IM-共通マスタ インポート・エクスポート仕様書

2014/08/29 第6版

<< 変更履歴 >>

変更年月日	変更内容
2010/04/01	初版
2011/05/23	<p>第 2 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5.1.4.1 プライベートグループ」「5.1.4.2 プライベートグループ所属」「5.1.5.1 ユーザ」「5.1.7.1 取引先」CSV のフォーマットの誤記を修正しました。 ・「5.2.2 会社・組織」「5.2.3 パブリックグループ」「5.2.4 プライベートグループ」「5.2.5 ユーザ」「5.2.6 法人」「5.2.7 取引先」「5.2.8 品目カテゴリ」XML のフォーマットの誤記を修正しました。 ・「2 データ領域」アカウントのインポート/エクスポートについて追記。 ・「5.1 CSV フォーマット」CSV 表の必須項目の説明を修正。 ・「5.1 CSV フォーマット」CSV 書式について追記。 ・「5.1.2.5 組織分類」「5.1.3.5 パブリックグループ分類」「5.1.5.2 ユーザ分類」「5.2.2 会社・組織」「5.2.3 パブリックグループ」「5.2.5 ユーザ」分類タイプの説明を追記。 ・「5.1.5.1 ユーザ」「5.2.5 ユーザ」性別の説明を追記。 ・「2.2 会社組織」「2.3 パブリックグループ」に最上位となるデータについて追記。 ・「6.2.2 エクスポート設定ファイル」設定ファイル例の誤字を修正。
2011/09/30	<p>第 3 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSV、XML のフォーマットに任意の文字列を指定する場合は「IM-共通マスタ 入力項目定義書」を参考にするように修正しました。 ・「6.2.1.6 文字コード」に UTF-8 利用の注意事項を追記しました。 ・「5.1.4.1 プライベートグループ」CSV フォーマットの誤植を修正しました。 ・「5.2.2 会社・組織」CSV フォーマットの誤植を修正しました。
2012/08/03	<p>第 4 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5.1.2.4 組織所属／組織所属役職」、「5.1.3.4 パブリックグループ所属／パブリックグループ所属役割」の項目に「delete_flag」を追記しました。 ・「5.2.2 会社・組織」、「5.2.3 パブリックグループ」の要素に「delete_flag」を追記しました。 ・「5.2.2 会社・組織」の要素「category-item」に属性「category-cd」を追記しました。 ・「3.1 概要」に内包構成の削除に関する説明を追記しました。
2014/04/11	<p>第 5 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表題を「IM-共通マスタ インポート・エクスポート仕様書」に変更しました。 ・「5.1 CSV フォーマット」に削除フラグに関する脚注を追記しました。
2014/08/29	<p>第 6 版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5.1.4.2 プライベートグループ所属」の項目に「is_disable」を追記しました。 ・「5.2.4 プライベートグループ」の要素「private-group-attach」に属性「is-disable」を追記しました。

<< 目次 >>

1	はじめに.....	1
1.1	目的.....	1
1.2	構成.....	1
1.3	前提条件.....	1
2	データ領域.....	2
2.1	会社グループ.....	2
2.2	会社組織.....	2
2.3	パブリックグループ.....	3
2.4	プライベートグループ.....	3
2.5	ユーザ.....	4
2.6	法人.....	4
2.7	取引先.....	4
2.8	品目.....	4
2.9	品目カテゴリ.....	4
2.10	通貨レート.....	5
3	インポート.....	6
3.1	概要.....	6
3.1.1	国際化情報をもつエンティティのインポート.....	6
3.1.2	期間化情報を持つエンティティのインポート.....	7
3.1.3	国際化、期間化情報を持つエンティティの更新.....	7
3.2	スナップショットインポート.....	7
3.2.1	スナップショットインポートで作成／更新される期間.....	8
3.3	全期間インポート.....	9
3.3.1	インポートで API がリスナに通知する内容.....	9
4	エクスポート.....	11
4.1	概要.....	11
4.2	スナップショットエクスポート.....	11
4.3	全期間エクスポート.....	11
4.4	フィルタリング機能.....	12
5	データファイルのフォーマット.....	13
5.1	CSV フォーマット.....	13
5.1.1	会社グループ.....	13
5.1.2	会社組織.....	14
5.1.3	パブリックグループ.....	17
5.1.4	プライベートグループ.....	19
5.1.5	ユーザ.....	19
5.1.6	法人.....	21
5.1.7	取引先.....	22
5.1.8	品目カテゴリ.....	22
5.1.9	品目.....	23
5.1.10	通貨.....	23
5.2	XML フォーマット.....	24
5.2.1	会社グループ.....	24
5.2.2	会社・組織.....	25
5.2.3	パブリックグループ.....	27
5.2.4	プライベートグループ.....	28

5.2.5	ユーザ.....	29
5.2.6	法人.....	30
5.2.7	取引先.....	31
5.2.8	品目カテゴリ.....	32
5.2.9	品目.....	32
5.2.10	通貨.....	33
6	インポート/エクスポートの実行.....	34
6.1	実行プログラム概要.....	34
6.1.1	バッチプログラム.....	34
6.1.2	インポート/エクスポート API.....	34
6.2	設定ファイル.....	35
6.2.1	インポート設定ファイル.....	35
6.2.2	エクスポート設定ファイル.....	38
6.2.3	CSV でのデータファイル指定方法.....	40
7	(付録) IM-共通マスタ API から実行する.....	42

1 はじめに

1.1 目的

本書は、IM-共通マスタ のインポート/エクスポート機能について以下の内容を説明することを目的とします。

- インポート/エクスポートの対象となる範囲
- インポート/エクスポートのデータ形式とその処理方法の違い
- インポート/エクスポートの実行方法

1.2 構成

本書の構成は以下のとおりです。

- 「2 データ領域」では、IM-共通マスタ インポート/エクスポート機能で扱うデータの範囲について説明する。
- 「3 インポート」および「4 エクスポート」では、2つのデータ形式(CSV 形式、XML 形式)それぞれに対して、処理方法を説明する。
- 「5 データファイルのフォーマット」では、2つのデータ形式のフォーマットについて説明する。
- 「6 インポート/エクスポートの実行」では、インポート/エクスポートの実行方法について説明する。

1.3 前提条件

本書は、intra-mart WebPlatform/AppFramework に付属するIM-共通マスタの各種の制限事項、動作環境を前提条件としています。本書では IM-共通マスタについての詳細には解説しませんので、IM-共通マスタの仕様については『IM-共通マスタ 仕様書』を参考にしてください。

2 データ領域

IM-共通マスタインポート／エクスポート機能は、表 2.1 のデータ領域が対象となります。データ領域に含まれるエンティティについては次節から解説します。アカウントのインポート、エクスポートについては「アクセスセキュリティ仕様書」を参照してください。

表 2-1 インポート／エクスポートで扱われるデータ領域

データ領域	対象のエンティティ
会社グループ	会社グループとその構成、会社の所属
会社組織	会社と組織、役職、内包構成(ツリー構造)、ユーザの所属
パブリックグループ	パブリックグループと役割、内包構成(ツリー構造)、ユーザの所属
プライベートグループ	プライベートグループと、ユーザの所属
ユーザ	ユーザのプロファイル情報
法人	法人、法人の内包構成(ツリー構造)、取引先の所属
取引先	取引先の情報
品目	品目の情報
品目カテゴリ	品目カテゴリとその内包構成(ツリー構造)、品目の所属
通貨レート	通貨レートの情報

2.1 会社グループ

データ領域『会社グループ』は、3つのエンティティから構成されています。

表 2-2 会社グループのエンティティ

エンティティ	対象のテーブル
会社グループ	imm_company_grp
会社グループ内包	imm_company_grp_inc_ath
会社グループ所属	imm_company_grp_ath

- 会社の所属をインポートする場合、その会社がすでに登録されている必要があります。
- 会社グループセットは、会社グループセットを示す会社グループをインポートしたときに作成されます。会社グループセットのみをインポート／エクスポートすることはできません。また、作成済みの会社グループセットを更新することはできません。

2.2 会社組織

データ領域『会社組織』は、7つのエンティティから構成されています。

表 2-3 会社組織のエンティティ

エンティティ	テーブル
組織	imm_department
組織内包	imm_department_inc_ath
役職	imm_company_post
組織所属 / 組織所属役職	imm_department_ath / imm_department_post_ath
組織分類	imm_department_ctg
組織分類項目	imm_department_ctg_itm
組織分類所属	imm_department_ctg_ath

- 組織所属をインポートする場合、所属対象のユーザがすでに登録されている必要があります。
- 組織所属役職をインポート／エクスポートする場合、必ず組織所属もインポート／エクスポートの対象にな

ります。組織所属役職がない場合は、組織所属のみでのインポート/エクスポートとなります。

- 会社/組織セットは、組織インポート時に必要に応じて作成されます。会社/組織セットのみのインポート/エクスポートはできません。また、既存の会社/組織セットを更新することはできません。
- 組織所属のインポート時に、主所属を設定することができます。ただし、主所属の期間が重複していた場合、上書きします。
 - ◆ インポート対象ではない主所属期間がすでに存在していた場合は、重複する期間の主所属を解除した上でインポートします。
 - ◆ 同一のインポートデータファイル内に重複した主所属が存在していた場合、どの主所属が有効になるかは保証しません。
- 会社コード、組織セットコード、組織コードが同じ組織が最上位の組織となります。

2.3 パブリックグループ

データ領域『パブリックグループ』は、7つのエンティティから構成されています。

表 2-4 パブリックグループのエンティティ

エンティティ	テーブル
パブリックグループ	imm_public_grp
パブリックグループ内包	imm_public_grp_inc_ath
役割	imm_public_grp_role
パブリックグループ所属 / 所属役割	imm_public_grp_ath / imm_public_grp_role_ath
パブリックグループ分類	imm_public_grp_ctg
パブリックグループ分類項目	imm_public_grp_ctg_itm
パブリックグループ分類所属	imm_public_grp_ctg_ath

- パブリックグループ所属をインポートする場合、所属させるユーザがすでに登録されている必要があります。
- パブリックグループ所属役割をインポート/エクスポートする場合、パブリックグループ所属もインポート/エクスポート対象になります。パブリックグループ所属役割がない場合は、パブリックグループ所属のみがインポート/エクスポート対象になります。
- パブリックグループセットはパブリックグループインポート時に必要に応じて作成されます。パブリックグループセットを単独でインポート/エクスポートはできません。また、既存のパブリックグループセットを更新することはできません。
- パブリックグループセットコード、パブリックグループコードは同じパブリックグループが最上位のパブリックグループとなります。

2.4 プライベートグループ

データ領域『プライベートグループ』は、2つのエンティティから構成されています。

表 2-5 プライベートグループのエンティティ

エンティティ	テーブル
プライベートグループ	imm_private_grp
プライベートグループ所属	imm_private_grp_ath

- プライベートグループ所属をインポートする場合、所属させるユーザがすでに登録されている必要があります。

2.5 ユーザ

データ領域『ユーザ』は、4つのエンティティから構成されています。

表 2-6 ユーザのエンティティ

エンティティ	テーブル
ユーザ	imm_user
ユーザ分類	imm_user_ctg
ユーザ分類項目	imm_user_ctg_itm
ユーザ分類所属	imm_uset_ctg_ath

2.6 法人

データ領域『法人』は、3つのエンティティから構成されています。

表 2-7 法人のエンティティ

エンティティ	テーブル
法人	imm_corporation
法人内包	imm_corporation_inc_ath
法人所属	imm_corporation_ath

- 法人所属をインポートする場合、取引先がすでに存在している必要があります。
- 法人セットは、法人インポート時に必要に応じて作成されます。法人セットのみのインポート／エクスポートはできません。また、既存の法人セットを更新することはできません。
- 法人分類／法人分類項目／法人分類所属は、インポート／エクスポートの対象外です。

2.7 取引先

データ領域『取引先』は、1つのエンティティから構成されています。

表 2-8 取引先のエンティティ

エンティティ	テーブル
取引先	imm_customer

- 取引先分類／取引先分類項目／取引先分類所属は、インポート／エクスポートの対象外です。

2.8 品目

データ領域『品目』は、1つのエンティティから構成されています。

表 2-9 品目のエンティティ

エンティティ	テーブル
品目	imm_item

- 品目分類／品目分類項目／品目分類所属は、インポート／エクスポートの対象外です。

2.9 品目カテゴリ

データ領域『品目カテゴリ』は、3つのエンティティから構成されています。

表 2-10 品目カテゴリのエンティティ

エンティティ	テーブル
--------	------

品目カテゴリ	imm_item_category
品目カテゴリ内包	imm_item_category_inc_ath
品目カテゴリ所属	imm_item_category_ath

- 品目カテゴリ所属をインポートするためには、品目がすでに存在している必要があります。
- 品目カテゴリセットは、品目カテゴリインポート時に必要に応じて作成されます。品目カテゴリセットのみをインポート/エクスポートすることはできません。また、既存の品目カテゴリセットを更新することはできません。

2.10 通貨レート

データ領域「通貨レート」は、1つのエンティティで構成されています。

- 通貨レートは、TTB/TTS の 2 レコードをセットで扱います。通貨コードから元通貨コードの TTB と、TTS (=元通貨コードと通貨コードを入れ替えたときの TTB) がセットになります。

表 2-11 通貨レートのエンティティ

エンティティ	テーブル
通貨レート	imm_currency_rate

3 インポート

3.1 概要

IM-共通マスタのインポート機能は、単一期間をインポートするスナップショットインポートと、システム開始日からシステム終了日までの間にいくつかの期間をインポートする全期間インポートがあります。

インポートに使用するデータファイルには、XMLとCSVの2つのフォーマットを使用することができます。XMLでは複数の期間を扱えるのに対し、CSVでは期間情報は持ちません。期間以外の扱える情報には差異はありません。

複数の期間、あるいはエンティティごとに異なる期間を持つデータを同時にインポートする場合はXMLでデータファイルを作成してください。

インポートは原則として、データの登録／更新のみとなっています。既存のエンティティ、エンティティの所属情報を削除することはできませんので注意してください。ただし例外として内包構成のみ、インポート対象期間の既存情報が削除されます。内包構成は追記ができず、必ずすべての構成情報をインポートする必要があります。また、内包構成に関して、一部の内包情報を有効/無効化することはできません。インポートファイルでは、項目ごとに削除フラグで有効/無効が設定できますが、同一セット内で削除フラグに統一した値を指定する必要があります。同一セット内で削除フラグの値が異なる場合、最後に位置する項目の削除フラグの値でセット内の全ての内包情報が更新されます。

表 3-1 機能比較表

	スナップショット	全期間
扱えるロケール	制限なし	制限なし
扱える期間	1期間のみ すべて同じ開始日／終了日	複数の期間を作成可能 それぞれに任意の期間を設定可能
期間の指定方法	設定ファイルに指定	インポートデータファイル内で指定
データファイル	CSV、XML	XML

- データファイルフォーマットでXMLを選択してスナップショットインポートを実行した場合の注意点
 - ◆ XMLデータファイルに開始日／終了日を設定しても無視されます。
 - ◆ 複数の期間化情報が記述されている場合は、その中のいずれか1つの期間化情報のみがインポートされます。この場合、どの期間化情報を選択するかは選択できず、また必ず特定のものが選択されることを保証していません。

3.1.1 国際化情報をもつエンティティのインポート

インポートファイルには複数ロケールの国際化情報を記述することができ、記述した国際化情報はすべて登録されます。記述がないロケールのデータはそのまま残り、削除されることはありません。その場合は非国際化情報のみが更新されます。

- CSVでインポートする場合の注意点

データファイルのフォーマットがCSVの場合、1行に1ロケールのデータを記述します。複数のロケールをインポートする場合、1つのデータに対して複数行記述することになりますが、非国際化データはすべて同じ内容で記

述する必要があります。省略、あるいは異なるデータを記述することはできません。

リスト 3-2 は、パブリックグループの CSV データの例です。先頭から 4 つの太字部分（パブリックグループセットコード、パブリックグループコード、ソートキー、削除フラグ）は必ず同一である必要があります。

```
public-group,public-group,17,false,ja,サンプルパブリック,サンプル,サンプルパブリック,サンプル
public-group,public-group,17,false,en,sample-public,sample,sample public,sample
```

リスト3-2 日本語の英語を持つパブリックグループの例

- ◆ 1 行目が日本語、2 行目が英語の情報となる。ソートキー、削除フラグは同じでなければならない。
- ◆ 異なるデータを設定した場合、どちらか一方のデータで登録されます。この場合、どちらか特定のものが一定して選択されることを保証していません。

3.1.2 期間化情報を持つエンティティのインポート

全期間インポートでは、データファイルに記述したとおりの期間が作成されます。

データファイル内の期間情報が連続していない場合、または重複している場合はエラーが発生しインポートは中止します。

スナップショットインポートでは原則、1 期間のみがインポート対象になります。

ただし、インポートの期間がシステム開始日からシステム終了日までに満たない場合、複数期間を作成する場合があります。

- 新しいエンティティをインポートした場合。
- 国際化情報を持つエンティティに対して、ロケールを追加した場合。（次節で解説）

この場合、インポート対象の 1 期間以外のデータは自動で補完されるものであり、任意のデータを指定することはできません。

3.1.3 国際化、期間化情報を持つエンティティの更新

期間化情報を持つエンティティが、国際化情報を持っている場合、すべての国際化情報の期間が同じように変更されます。インポートデータファイルに記述されていない国際化情報の期間も更新されます。

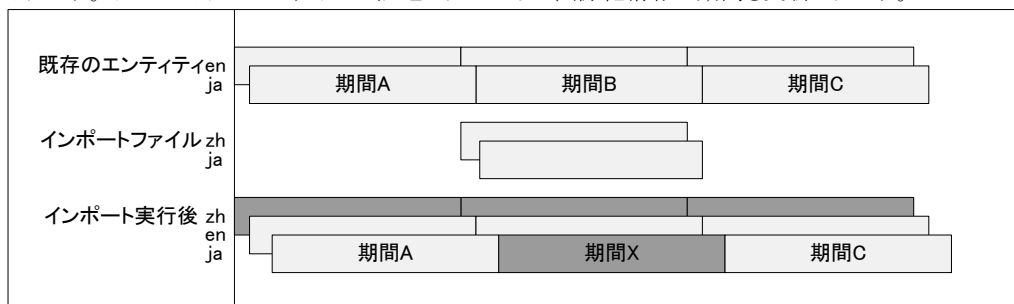


図 3-3 期間 B をインポートした例

インポート実行後の濃い灰色の部分更新対象となる期間です。

- 日本語(ja)の期間 B はインポートデータで更新する。
- 英語(en)は、対象ではないので国際化情報は更新しない。開始日と終了日、削除フラグを更新する。
- 中国語(zh)は、インポート対象の期間 B が作成し、不足する期間 A と期間 C も同時に作成する。

3.2 スナップショットインポート

ある時点での日付上に存在する期間化情報を抽出したデータをスナップショットと呼びます。スナップショットインポートでは、このスナップショットデータを元にしてインポートすることができます。

- 期間化情報を持つエンティティすべてに対してインポートの開始日から終了日までの1期間を作成する。
 - ◆ 期間化情報を持たないエンティティに対しては期間に関係なく登録/更新する。
- インポート対象になる期間化情報の開始日、終了日は設定ファイルで設定する。
- インポートにより作成される期間と既存のマスタ情報に存在する期間が重複する部分は、既存の期間が短縮、または削除される。
- インポートファイル内のデータは、並び順の制限はない。
 - ◆ 同一ファイル内であれば、先にインポートする必要があるデータからインポートする。

3.2.1 スナップショットインポートで作成／更新される期間

スナップショットインポートで作成される期間は、設定ファイルで指定した 1 期間です。既存の期間が設定した開始日／終了日にある場合は、その開始日／終了日で期間が分割されます。

3.2.1.1 新規追加の場合

- インポート対象期間の「期間 B」が作成されます。
- この期間のみでは、「全期間のデータを持つ」という制約を満たせないで、前後に期間を追加します。
 - ◆ システム開始日からインポート開始日までの期間「期間 A」が作成されます。
 - ◆ インポート終了日からシステム終了日までの期「期間 C」が作成されます。

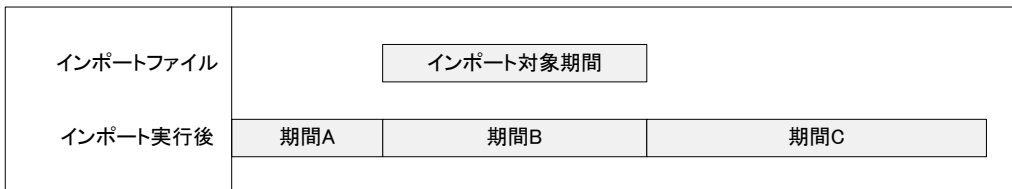


図 3-4 新規作成

3.2.1.2 既存のデータが更新される場合

- 期間が4つに分割されているエンティティに、ある期間をインポートした場合。
 - ◆ 「期間 A」の終了日をインポートの開始日に変更します。
 - ◆ 「期間 B」はインポートの期間に含まれるので、「期間 B」は削除します。
 - ◆ 「期間 C」の開始日をインポートの終了日に変更します。
 - ◆ 「期間 D」はインポート期間の範囲外なので変更しません。
 - ◆ インポートされるデータを、「期間 X」として作成します。



図 3-5 期間の上書き 1

- 期間が 1 つだけのエンティティにインポートした場合
 - ◆ 「期間 A」の終了日をインポートの開始日に変更します。
 - ◆ インポートされたデータは、「期間 B」として作成します。
 - ◆ インポートの終了日からシステムの終了日までの期間「期間 C」を作成します。開始日／終了日以外は「期間 A」と同じものです。

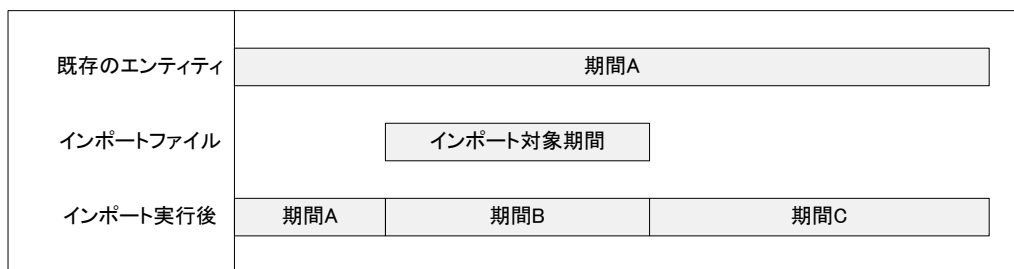


図 3-6 期間の上書き 2

3.3 全期間インポート

あるエンティティに対して、システム開始日からシステム終了日までのいくつかの期間情報を纏めてインポートすることができます。すべての期間化情報に任意の期間化情報を設定してインポートすることができます。

- 期間化情報を持つエンティティそれぞれが異なる期間情報を持つ。
 - ◆ システム開始日からシステム終了日までの連続した期間を設定する必要がある。ある日付で複数の期間を持つことはなく、また期間情報が無くなることはできない。
 - ◆ 期間化情報を持たないエンティティに対しては、期間は関係なく登録/更新する。
- インポートデータファイル内に期間を記述する。
 - ◆ 既存のデータで、データの開始日と終了日を変更しない場合でも省略することはできない。
- すべての期間が、インポートファイルの期間で新しく作成される。
 - ◆ 既存の期間を残す場合は同じ内容で定義する。ただし、期間コードは新しく割り振られる。
 - ◆ 期間の定義が一部のみである場合はエラーになる。
- インポートファイル内のデータは、並び順の制限はない。

3.3.1 インポートで API がリスナに通知する内容

インポートでは、データの更新に IM-共通マスタのAPIを使用します。インポート実行中に更新内容がリスナに通知する順番を解説します。メソッド名の「???」部分は Manager それぞれのエンティティで異なります。

- 全期間インポートでは、期間コードを新しく割り振るために期間の変更を複数回実行します。



図 3-7 インポートターゲット

先頭に新しい期間コードを持った期間を作成するため、先頭の期間を後方へ移動します。(図 3-8) システム開始日から始まる期間「期間A」の期間を変更します。

```
01: update???Term(期間 A) // 期間A: 今日の日付～システム終了日
02: remove???Term(期間 B)
03: create???Term(期間 X) // 期間X: システム開始日～今日の日付
```

既存のエンティティ	期間X	期間A

図 3-8 新しい期間を作成

■ 新しく作成した期間を全期間に変更し、期間Xで全期間を埋めます。(図 3-9)

```
04: update???Term(期間 X) // 期間X: システム開始日～システム終了日
05: remove???Term(期間 A)
```

既存のエンティティ	期間X

図 3-9 全期間に変更

「期間X」をインポートデータの1つ目の終了日で分割します。(図 3-10)

「期間X」の期間化情報を更新します。

```
06: createTerm(期間 Y) // 期間Y: 期間 2 の開始日～システム終了日
07: updateTerm(期間 X) // 期間X: システム開始日～期間1の終了日
08: update??? (期間 X)
```

既存のエンティティ	期間X	期間Y

図 3-10 期間Xを分割

「期間Y」をインポートデータの2つめの終了日で分割します。(図 3-11)

「期間Y」の期間化情報を更新します。

```
09: createTerm(期間 Z) // 期間Z: 期間 3 の開始日～システム終了日
10: updateTerm(期間 Y) // 期間Y: 期間 2 の開始日～期間 2 の終了日
11: update??? (期間 Y)
```

最後の期間は分割を実行しません。「期間Z」の期間化情報を更新します。

```
12: updateTerm(期間 Z)
13: update??? (期間 Z)
```

既存のエンティティ	期間X	期間Y	期間Z

図 3-11 期間Yを作成

4 エクスポート

4.1 概要

IM-共通マスタは、マスタ情報のエクスポート機能を提供します。エクスポートの方式は、指定した日付のスナップショットをエクスポートするスナップショットエクスポート、システム開始日から終了日まで全期間をエクスポートする全期間エクスポートがあります。

エクスポートできるデータファイルのフォーマットは、CSV 形式と XML 形式があります。

XML 形式ではすべての期間情報を出力しますが、CSV 形式では期間情報は出力せず、特定日で有効なデータのみを出力します。期間情報以外の出力データに違いはありません。どちらの形式で出力しても、出力したデータファイルを再度インポートすることができます。

表 4-1 機能比較表

	スナップショット		全期間
扱えるロケール	制限なし		制限なし
扱える期間	指定した日付上の 1 期間		存在するすべての期間
データファイル	CSV	XML	XML
出力される期間情報 (開始日/終了日)	なし	出力対象の期間	すべて出力
ファイルの単位	エンティティ		データ領域

4.2 スナップショットエクスポート

スナップショットエクスポートでは、指定したある日付でのスナップショットを出力します。

- 期間化情報を持つエンティティは、指定した日付上にある期間の情報が出力対象になります。
- 期間化されていないエンティティは、日付に関係なく出力します。
- すべての国際化情報を出力します。
- エクスポート基準日は設定ファイルで指定します。
- エクスポートされるデータはすべて 1 つのファイルに出力します。
- 出力するフォーマットは、CSV、XML から選択することができます。
- CSV 出力時、期間の開始日/終了日は出力しません。
- XML 出力時は出力対象となった期間の開始日/終了日を出力します。

4.3 全期間エクスポート

全期間エクスポートでは、システム開始日からシステム終了日までの全期間のデータを出力します。

- 期間化情報、非期間化情報をすべて出力します。
- すべての国際化情報を出力します。
- エクスポート対象データはすべて 1 つのファイルに出力します。
- 出力するファイルのフォーマットは XML のみです。

4.4 フィルタリング機能

フィルタリング機能は、エクスポート時に出力対象のデータを制限して出力する機能です。出力対象の制限は、各データ領域で決められたエンティティを指定することができます。

- フィルタリング対象で指定したエンティティと、そのエンティティに関連づけられているデータが出力対象になります。
- フィルタリング対象のエンティティと関連づけがないエンティティはすべて出力対象になります。
 - ◆ 各データ領域の分類、分類項目が該当します。
- 対象を複数指定することはできません。
- 設定方法は 6.2.2.7 節を参照してください。
- 出力対象のロケールを指定することはできません。
 - ◆ 一部ロケールのみを抽出した場合、エンティティ間の整合性がとれなくなるためです。

5 データファイルのフォーマット

この章では、インポート/エクスポートのデータファイルフォーマットについて解説します。

5.1 CSV フォーマット

IM-共通マスタ の CSV インポート、エクスポート機能で使用するフォーマットを示します。

備考欄に特に記述がない項目は、任意の文字列を指定します。インポート実行時には、入力チェックを行っていないため、正常にデータベースに登録できた値でも、画面から操作できない可能性があります。最大文字数や利用可能な文字については、『IM-共通マスタ 入力項目定義書』を参考にしてください。

CSV 定義表の必須とは、必須(表中で○)のものは空文字で登録不可能、必須でない(表中で○でない)ものは空文字で登録可能の意味であり、データファイルで項目を省略可能か否かという意味ではありません。例えば、略称や検索名を指定せずに備考を指定する場合は、略称/検索名は空文字を指定してください。

国際化にマークがあるものは、複数の国際化情報を登録するときに任意のデータを指定できる項目です。マークがないものは国際化されていませんので同一のものを指定します。

■ ターゲットファイルのエンティティ

CSV フォーマットでは、エンティティごとにデータファイルを分割する必要があります。インポート/エクスポート実行時に設定ファイルのターゲットファイルの `type` 属性でエンティティを指定します。設定ファイルについての詳細は 6 章で解説しますので、あわせて参照してください。

対象のデータファイルに組織を指定する例

```
05: <file type="department">im_master/import/data.csv</file>
```

■ CSV の書式

CSV で改行、カンマ(,)は、二重引用符(")で括ることで、表せます。また二重引用符(")は、二重引用符を2つ書くことで表せます。

```
(例)
・カンマ
aoyagi,2,false,0,ja,青柳辰巳,アオヤギ タツミ,,,,,,,,,,,,,"開発リーダー,"
・改行
ueda,1,false,0,ja,上田辰男,ウエダ タツオ,,,,,,,,,,,,,"一般社員ユーザー
改行"
・二重引用符
maruyama,4,false,0,ja,円山益男,マルヤマ マスオ,,,,,,,,,,,,,"プロジェクトリーダー""
```

5.1.1 会社グループ

5.1.1.1 会社グループ

表 5-1 会社グループ

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社グループセットコード	company_group_set_cd	○		
2	会社グループコード	company_group_cd	○		
3	ソートキー	sort_key	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		"true" / "false"

5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	会社グループ名	company_group_name	○	○	
7	会社グループ略称	company_group_short_name		○	
8	会社グループ検索名	company_group_search_name		○	
9	備考	notes		○	

5.1.1.2 会社グループ内包

表 5-2 会社グループ内包

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社グループセットコード	company_group_set_cd	○		
2	会社グループコード	company_group_cd	○		
3	親会社グループコード	parent_company_group_cd	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false” ¹

5.1.1.3 会社グループ所属

表 5-3 会社グループ所属

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社グループセットコード	company_group_set_cd	○		
2	会社グループコード	company_group_cd	○		
3	会社コード	company_cd	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”

5.1.2 会社組織

5.1.2.1 組織

表 5-4 組織

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社コード	company_cd	○		
2	組織セットコード	department_set_cd	○		
3	組織コード	department_cd	○		
4	ソートキー	sort_key	○		
5	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
6	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
7	組織名	department_name	○	○	
8	組織略称	department_short_name		○	
9	組織検索名	department_search_name		○	
10	国コード	country_cd		○	
11	郵便番号	zip_code		○	
12	住所1	address1		○	
13	住所2	address2		○	
14	住所3	address3		○	
15	電話番号	telephone_number		○	
16	内線番号	extension_number		○	

¹ 同一セット内では削除フラグは統一した値を指定してください。

17	FAX 番号	fax_number		○	
18	内線 FAX 番号	extension_fax_number		○	
19	メールアドレス1	email_address1		○	
20	メールアドレス2	email_address2		○	
21	URL	url		○	
22	備考	notes		○	

5.1.2.2 組織内包

表 5-5 組織内包

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社コード	company_cd	○		
2	組織セットコード	department_set_cd	○		
3	組織コード	department_cd	○		
4	親組織コード	parent_department_cd	○		
5	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false” ²

5.1.2.3 役職

表 5-6 役職

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社コード	company_cd	○		
2	組織セットコード	department_set_cd	○		
3	役職コード	post_cd	○		
4	ソートキー	sort_key	○		
5	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
6	ランク	rank	○		
7	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
8	役職名	post_name	○	○	
9	備考	notes		○	

5.1.2.4 組織所属／組織所属役職

表 5-7 組織所属／組織所属役職

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社コード	company_cd	○		
2	組織セットコード	department_set_cd	○		
3	組織コード	department_cd	○		
4	ユーザコード	user_cd	○		
5	主所属フラグ	department_main			“true” / “false”
6	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
7	役職コード	post_cd			
8	削除フラグ(役職)	delete_flag			“true” / “false” “true”の場合、組織所属役職を削除。

² 同一セット内では削除フラグは統一した値を指定してください。

					※項目が省略された場合は、“false”の動作となります。
--	--	--	--	--	-------------------------------

5.1.2.5 組織分類

表 5-8 組織分類

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	分類コード	category_cd	○		
2	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
3	分類タイプ	category_type	○		“1” / “0” 0:単一分類区分 1:複数分類区分
4	ソートキー	sort_key	○		
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	分類名	category_name	○	○	
7	備考	notes		○	

5.1.2.6 組織分類項目

表 5-9 組織分類項目

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	分類コード	category_cd	○		
2	分類項目コード	category_item_cd	○		
3	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
4	ソートキー	sort_key	○		
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	分類項目名	category_item_cd	○	○	
7	備考	notes		○	

5.1.2.7 組織分類所属

表 5-10 組織分類所属

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社コード	company_cd	○		
2	組織セットコード	department_set_cd	○		
3	組織コード	department_cd	○		
4	分類コード	category_cd	○		
5	分類項目コード	category_item_cd	○		
6	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”

5.1.3 パブリックグループ

5.1.3.1 パブリックグループ

表 5-11 パブリックグループ

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	パブリックグループセットコード	public_group_set_cd	○		
2	パブリックグループコード	public_group_cd	○		
3	ソートキー	sort_key	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	パブリックグループ名	public_group_name	○	○	
7	パブリックグループ略称	public_group_short_name		○	
8	パブリックグループ検索名	public_group_search_name		○	
9	備考	notes		○	

5.1.3.2 パブリックグループ内包

表 5-12 パブリックグループ内包

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	パブリックグループセットコード	public_group_set_cd	○		
2	パブリックグループコード	public_group_cd	○		
3	親パブリックグループコード	parent_public_group_cd	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false” ³

5.1.3.3 役割

表 5-13 役割

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	パブリックグループセットコード	public_group_set_cd	○		
2	役割コード	role_cd	○		
3	ソートキー	sort_key	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
5	ランク	rank	○		
6	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
7	役割名	role_name	○	○	
8	備考	notes		○	

5.1.3.4 パブリックグループ所属／パブリックグループ所属役割

表 5-14 パブリックグループ所属／パブリックグループ所属役割

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	パブリックグループセットコード	public_group_set_cd	○		
2	パブリックグループコード	public_group_cd	○		
3	ユーザコード	user_cd	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
5	役割コード	role_cd	○		

³ 同一セット内では削除フラグは統一した値を指定してください。

6	削除フラグ(役割)	delete_flag			<p>“true” / “false”</p> <p>“true”の場合、パブリックグループ所属役割を削除。</p> <p>※項目が省略された場合は、“false”の動作となります。</p>
---	-----------	-------------	--	--	---

5.1.3.5 パブリックグループ分類

表 5-15 パブリックグループ分類区分

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	分類コード	category_cd	○		
2	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
3	分類タイプ	category_type	○		<p>“1” / “0”</p> <p>0:単一分類区分</p> <p>1:複数分類区分</p>
4	ソートキー	sort_key	○		
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	分類名	category_name	○	○	
7	備考	notes		○	

5.1.3.6 パブリックグループ分類項目

表 5-16 パブリックグループ分類区分項目

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	分類コード	category_cd	○		
2	分類項目コード	category_item_cd	○		
3	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
4	ソートキー	sort_key	○		
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	分類項目名	category_item_cd	○	○	
7	備考	notes		○	

5.1.3.7 パブリックグループ分類所属

表 5-17 パブリックグループ分類所属

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	パブリックグループセットコード	public_group_set_cd	○		
2	パブリックグループコード	public_group_cd	○		
3	分類コード	category_cd	○		
4	分類項目コード	category_item_cd	○		
5	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”

5.1.4 プライベートグループ

5.1.4.1 プライベートグループ

表 5-18 プライベートグループ

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	プライベートグループコード	private_group_cd	○		
2	ユーザコード	user_cd	○		
3	ソートキー	sort_key	○		
4	プライベートグループ名	private_group_name	○		
5	プライベートグループ検索名	private_group_search_name	○		
6	備考	notes	○		

5.1.4.2 プライベートグループ所属

表 5-19 パブリックグループ所属

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	プライベートグループコード	private_group_cd	○		
2	所有者コード	owner_cd	○		
3	ユーザコード	user_cd	○		
4	ソートキー	sort_key	○		
5	無効フラグ ⁴	is_disable			“true” / “false” “true”場合、該当ユーザの処理を行わない。 ※項目が省略された場合は、“false”の動作となります。

5.1.5 ユーザ

5.1.5.1 ユーザ

表 5-20 ユーザ

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	ユーザコード	user_cd	○		
2	ソートキー	sort_key	○		
3	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
4	性別	sex			“0” / “1” 0:男性 1:女性
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	ユーザ名	user_name	○	○	
7	ユーザ検索名	user_search_name		○	
8	国コード	country_cd		○	
9	郵便番号	zip_code		○	
10	住所1	address1		○	
11	住所2	address2		○	
12	住所3	address3		○	

⁴ intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver.7.2.8 より追加された設定です。プロフィールが無効なユーザは“true”を設定してください。

13	電話番号	telephone_number		○	
14	内線番号	extension_number		○	
15	FAX 番号	fax_number		○	
16	内線 FAX 番号	extension_fax_number		○	
17	携帯電話番号	mobile_number		○	
18	メールアドレス1	email_address1		○	
19	メールアドレス2	email_address2		○	
20	携帯メールアドレス	mobile_email_address		○	
21	URL	url		○	
22	備考	notes		○	

5.1.5.2 ユーザ分類

表 5-21 ユーザ分類区分

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	分類コード	category_cd	○		
2	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
3	分類タイプ	category_type	○		“1” / “0” 0:単一分類区分 1:複数分類区分
4	ソートキー	sort_key	○		
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	分類名	category_name	○	○	
7	備考	notes		○	

5.1.5.3 ユーザ分類項目

表 5-22 ユーザ分類区分項目

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	分類コード	category_cd	○		
2	分類項目コード	category_item_cd	○		
3	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
4	ソートキー	sort_key	○		
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	分類項目名	category_item_cd	○	○	
7	備考	notes		○	

5.1.5.4 ユーザ分類所属

表 5-23 ユーザ分類所属

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	ユーザコード	user_cd	○		
2	分類コード	category_cd	○		
3	分類項目コード	category_item_cd	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”

5.1.6 法人

5.1.6.1 法人

表 5-24 法人

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	法人セットコード	corporation_set_cd	○		
2	法人コード	corporation_cd	○		
3	ソートキー	sort_key	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	法人名	corporation_name	○	○	
7	法人略称	corporation_short_name		○	
8	法人検索名	corporation_search_name		○	
9	国コード	country_cd		○	
10	郵便番号	zip_code		○	
11	住所1	address1		○	
12	住所2	address2		○	
13	住所3	address3		○	
14	電話番号	telephone_number		○	
15	内線番号	extension_number		○	
16	FAX 番号	fax_number		○	
17	内線 FAX 番号	extension_fax_number		○	
18	メールアドレス1	email_address1		○	
19	メールアドレス2	email_address2		○	
20	URL	url		○	
21	備考	notes		○	

5.1.6.2 法人内包

表 5-25 法人内包

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	法人セットコード	corporation_set_cd	○		
2	法人コード	corporation_cd	○		
3	親法人コード	parent_corporation_cd	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false” ⁵

5.1.6.3 法人所属

表 5-26 法人所属

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	法人セットコード	corporation_set_cd	○		
2	法人コード	corporation_cd	○		
3	会社コード	company_cd	○		
4	取引先コード	customer_cd	○		
5	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”

⁵ 同一セット内では削除フラグは統一した値を指定してください。

5.1.7 取引先

5.1.7.1 取引先

表 5-27 取引先

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社コード	company_cd	○		
2	取引先コード	customer_cd	○		
3	ソートキー	sort_key	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	取引先名	customer_name	○	○	
7	取引先略称	customer_short_name		○	
8	取引先検索名	customer_search_name		○	
9	担当者	charge_person_name			
10	国コード	country_cd		○	
11	郵便番号	zip_code		○	
12	住所1	address1		○	
13	住所2	address2		○	
14	住所3	address3		○	
15	電話番号	telephone_number		○	
16	内線番号	extension_number		○	
17	FAX 番号	fax_number		○	
18	内線 FAX 番号	extension_fax_number		○	
19	メールアドレス1	email_address1		○	
20	メールアドレス2	email_address2		○	
21	URL	url		○	
22	備考	notes		○	

5.1.8 品目カテゴリ

5.1.8.1 品目カテゴリ

表 5-28 品目カテゴリ

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	品目カテゴリセットコード	item_category_set_cd	○		
2	品目カテゴリコード	item_category_cd	○		
3	ソートキー	sort_key	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	品目カテゴリ名	item_category_name	○	○	
7	品目カテゴリ略称	item_category_short_name		○	
8	品目カテゴリ検索名	item_category_search_name		○	
9	備考	notes		○	

5.1.8.2

品目カテゴリ内包

表 5-29 品目カテゴリ内包

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	品目カテゴリセットコード	item_category_set_cd	○		
2	品目カテゴリコード	item_category_cd	○		
3	親品目カテゴリコード	parent_item_category_cd	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false” ⁶

5.1.8.3

品目カテゴリ所属

表 5-30 品目カテゴリ所属

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	品目カテゴリセットコード	item_category_set_cd	○		
2	品目カテゴリコード	item_category_cd	○		
3	会社コード	company_cd	○		
4	品目コード	item_cd	○		
5	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”

5.1.9 品目

5.1.9.1 品目

表 5-31 品目

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	会社コード	company_cd	○		
2	品目コード	item_cd	○		
3	ソートキー	sort_key	○		
4	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
5	ロケール ID	locale_id	○	○	言語コード
6	品目名	item_name	○	○	
7	品目略称	item_short_name		○	
8	品目検索名	item_search_name		○	
9	備考	notes		○	

5.1.10 通貨

5.1.10.1 通貨レート

表 5-32 通貨レート

	項目名	ヘッダ	必須	国際化	備考
1	通貨コード	currency_cd	○		
2	元通貨コード	base_currency_cd	○		
3	削除フラグ	delete_flag	○		“true” / “false”
4	TTB	ttb	○		
5	TTS	tts	○		

⁶ 同一セット内では削除フラグは統一した値を指定してください。

5.2 XML フォーマット

IM-共通マスタ の XML インポート、エクスポート機能で使用されるフォーマットを示します。
備考欄に特に記述がない項目は、文字列を指定します。インポート実行時には、入力チェックを行っていないため、正常にデータベースに登録できた値でも、画面から操作できない可能性があります。最大文字数や利用可能な文字については、『IM-共通マスタ 入力項目定義書』を参考にしてください。

属性名の必須はマークがついているものがすべて必須となりますが、その属性が属する要素自体が省略可能な場合は、属性自体の記述はありません。属する要素が存在するときのみその属性が必須です。

データファイルのルート要素は<root>です。次節以降の XML 構造定義表では、簡略化のため省略しています。また、期間要素 (term) に期間コード (term-cd) を記述していません。期間コードはエクスポート時に出力することが可能ですが、インポートでは使用しません。必ず新しい期間コードが割り当てられます。そのため、構造定義表では期間コードの記述を省略しています。

5.2.1 会社グループ

表 5-33 会社グループ

要素名	属性名	必須	備考
company-group-set			
	company-group-set-cd	○	
company-group			
	company-group-cd	○	
	sort-key	○	
term			
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
locale		○	
	locale-id	○	言語コード
company-group-name		○	
	company-group-short-name		
	company-group-search-name		
	notes		
company-attach			
	company-cd	○	
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
inclusion			
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
relation		○	
	parent-company-group-cd	○	

		company-group-cd	○	
--	--	------------------	---	--

5.2.2 会社・組織

表 5-34 会社組織

要素名	属性名	必須	備考
company			
	company-cd	○	
department-set			
	department-set-cd	○	
department			
	department-cd	○	
	sort-key	○	
term			
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
locale			
	locale-id	○	言語コード
department-name	department-name	○	
	department-short-name		
	department-search-name		
	country-cd		
	zip-code		
	address1		
	address2		
	address3		
	telephone-number		
	extension-number		
	fax-number		
	extension-fax-number		
	email-address1		
	email-address2		
	url		
notes			
category-item-attach			
	category-cd	○	
	category-item-cd	○	
	delete-flag	○	“true” / “false”
user-attach			
	user-cd	○	
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
	department-main	○	“true” / “false”

			post-attach			
				post-cd	○	
			post			
				delete-flag	○	“true” / “false” “true”の場合、組織所属役職を削除。 ※要素「post」が省略された場合は、“false”の動作となります。
			inclusion			
			term		○	
				start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
				end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
				delete-flag	○	“true” / “false”
			relation		○	
				parent-department-cd	○	
				department-cd	○	
			post			
				post-cd	○	
				rank	○	
				sort-key	○	
			term		○	
				start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
				end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
				delete-flag	○	“true” / “false”
			locale		○	
				locale-id	○	言語コード
			post-name		○	
			notes			
			category			
				category-cd	○	
				delete-flag	○	“true” / “false”
				sort-key	○	
				category-type	○	“1” / “0” 0:単一分類区分 1:複数分類区分
			locale			
				locale-id	○	言語コード
			category-name		○	
			notes			
			category-item			
				category-cd	○	
				category-item-cd	○	
				delete-flag	○	“true” / “false”
				sort-key	○	
			locale		○	
				locale-id	○	言語コード

	category-item-name		○	
	notes			

5.2.3 パブリックグループ

表 5-35 パブリックグループ

要素名	属性名	必須	備考
public-group-set			
	public-group-set-cd	○	
public-group			
	public-group-cd	○	
	sort-key	○	
term			
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
locale			
	locale-id	○	言語コード
public-group-name		○	
	public-group-short-name		
	public-group-search-name		
	notes		
category-item-attach			
	category-cd	○	
	category-item-cd	○	
	delete-flag	○	“true” / “false”
user-attach			
	user-cd	○	
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
role-attach			
	role-cd	○	
role			
	delete-flag	○	“true” / “false” “true”の場合、パブリックグループ 所属役割を削除。 ※要素「role」が省略された場合 は、“false”の動作となります。
inclusion			
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
relation		○	

			parent-public-group-cd	○	
			public-group-cd	○	
role					
			role-cd	○	
			rank	○	
			sort-key	○	
term				○	
			start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
			end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
			delete-flag	○	“true” / “false”
locale				○	
			locale-id	○	言語コード
	role-name			○	
	notes				
category					
			category-cd	○	
			delete-flag	○	“true” / “false”
			sort-key	○	
			category-type	○	“1” / “0” 0:単一分類区分 1:複数分類区分
locale					
			locale-id	○	言語コード
	category-name			○	
	notes				
category-item					
			category-item-cd	○	
			delete-flag	○	“true” / “false”
			sort-key	○	
locale				○	
			locale-id	○	言語コード
	category-item-name			○	
	notes				

5.2.4 プライベートグループ

表 5-36 プライベートグループ

要素名	属性名	必須	備考
private-group			
	private-group-cd	○	
	user-cd	○	
	sort-key	○	
private-group-name		○	
private-group-search-name			
notes			
private-group-attach			
	user-cd	○	

	sort-key	○	
	is-disable ⁷		“true”場合、該当ユーザの処理を行わない。 ※項目が省略された場合は、“false”の動作となります。

5.2.5 ユーザ

表 5-37 ユーザ

要素名	属性名	必須	備考
user			
	user-cd	○	
	sort-key	○	
	sex		“0”/“1” 0:男性 1:女性
term			
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
locale			
	locale-id	○	言語コード
user-name		○	
	user-search-name		
	country-cd		
	zip-code		
	address1		
	address2		
	address3		
	telephone-number		
	extension-number		
	fax-number		
	extension-fax-number		
	mobile-number		
	email-address1		
	email-address2		
	mobile-email-address		
	url		
	notes		
category-item-attach			
	category-item-cd	○	
	delete-flag	○	“true” / “false”
category			
	category-cd	○	
	delete-flag	○	“true” / “false”

⁷ intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver.7.2.8 より追加された設定です。プロフィールが無効なユーザは“true”を設定してください。

	sort-key	○	
	category-type	○	“1” / “0” 0:単一分類区分 1:複数分類区分
locale			
	locale-id	○	言語コード
category-name		○	
	notes		
category-item			
	category-item-cd	○	
	delete-flag	○	“true” / “false”
	sort-key	○	
locale		○	
	locale-id	○	言語コード
category-item-name		○	
	notes		

5.2.6 法人

表 5-38 法人

要素名	属性名	必須	備考
corporation-set			
	corporation-set-cd	○	
corporation			
	corporation-cd	○	
	sort-key	○	
term			
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
locale			
	locale-id	○	言語コード
corporation-name		○	
	corporation-short-name		
	corporation-search-name		
	country-cd		
	zip-code		
	address1		
	address2		
	address3		
	telephone-number		
	extension-number		
	fax-number		
	extension-fax-number		
	email-address1		
	email-address2		
	url		

	notes			
customer-attach				
	customer-cd		○	
	term		○	
	start-date		○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date		○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag		○	“true” / “false”
inclusion				
term			○	
	start-date		○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date		○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag		○	“true” / “false”
relation			○	
	parent-corporation-cd		○	
	corporation-cd		○	

5.2.7 取引先

表 5-39 取引先

要素名	属性名	必須	備考
customer			
	customer-cd	○	
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
locale			
	locale-id	○	言語コード
customer-name	customer-name	○	
	customer-short-name		
	customer-search-name		
	charge-person-name		
	country-cd		
	zip-code		
	address1		
	address2		
	address3		
	telephone-number		
	extension-number		
	fax-number		
	extension-fax-number		
	email-address1		
	email-address2		
	url		
notes			

5.2.8 品目カテゴリ

表 5-40 品目カテゴリ

要素名	属性名	必須	備考
item-category-set			
	item-category-set-cd	○	
item-category		○	
	item-category-cd	○	
	sort-key	○	
term			
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
locale		○	
	locale-id	○	言語コード
item-category-name		○	
	item-category-short-name		
	item-category-search-name		
	notes		
item-attach			
	company_cd	○	
	item_cd	○	
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
inclusion			
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
relation		○	
	parent-item-category-cd	○	
	item-category-cd	○	

5.2.9 品目

表 5-41 品目

要素名	属性名	必須	備考
item			
	item-cd	○	
	sort-key	○	
term			
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
locale			

		locale-id	○	言語コード
	item-name		○	
	item-short-name			
	item-search-name			
	notes			

5.2.10 通貨

表 5-42 通貨レート

要素名	属性名	必須	備考
currency-rate		○	
	currency-cd	○	
	base-currency-cd	○	
term		○	
	start-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	end-date	○	yyyy-MM-dd 形式の日付文字列
	delete-flag	○	“true” / “false”
values		○	
	buying	○	
	selling	○	

6 インポート／エクスポートの実行

IM-共通マスタの、インポート／エクスポート機能は、API の一部として実装しています。標準のインポート／エクスポートはバッチから実行することができます。

6.1 実行プログラム概要

IM-共通マスタ のインポート／エクスポート機能は、以下 2 つのプログラムで構成されています。

- バッチ起動プログラム
 - ◆ 必要な情報を集め、インポート／エクスポート API を起動します。
- インポート／エクスポート API
 - ◆ 設定ファイルを読み込み、インポート／エクスポートを実行します。

6.1.1 バッチプログラム

バッチプログラムは、API の起動に必要な情報の取得、インポート／エクスポート設定ファイルの取得、トランザクションを処理します。

intra-mart WebPlatform/AppFramework インストール後の初期データインポートで、表 6-1 の各インポート／エクスポートバッチが登録されます。バッチの実行方法については、『グループ管理者操作ガイド』を参照してください。

表 6-1 バッチ ID 一覧

バッチ ID	バッチ名	バッチプログラムクラス
IMMCompanyGrpImport	会社グループインポート	StandardCompanyGroupBatchImporter
IMMCompanyGrpExport	会社グループエクスポート	StandardCompanyGroupBatchExporter
IMMCompanyImport	会社・組織インポート	StandardCompanyBatchImporter
IMMCompanyExport	会社・組織エクスポート	StandardCompanyBatchExporter
IMMPublicGrpImport	パブリックグループインポート	StandardPublicGroupBatchImporter
IMMPublicGrpExport	パブリックグループエクスポート	StandardPublicGroupBatchExporter
IMMPrivateGrpImport	プライベートグループインポート	StandardPrivateGroupBatchImporter
IMMPrivateGrpExport	プライベートグループエクスポート	StandardPrivateGroupBatchExporter
IMMUserImport	ユーザインポート	StandardUserBatchImporter
IMMUserExport	ユーザエクスポート	StandardUserBatchExporter
IMMCorporationImport	法人インポート	StandardCorporationBatchImporter
IMMCorporationExport	法人エクスポート	StandardCorporationBatchExporter
IMMCustomerImport	取引先インポート	StandardCustomerBatchImporter
IMMCustomerExport	取引先エクスポート	StandardCustomerBatchExporter
IMMItemCtgImport	品目カテゴリインポート	StandardItemCategoryBatchImporter
IMMItemCtgExport	品目カテゴリエクスポート	StandardItemCategoryBatchExporter
IMMItemImport	品目インポート	StandardItemBatchImporter
IMMItemExport	品目エクスポート	StandardItemBatchExporter
IMMRateImport	通貨レートインポート	StandardCurrencyRateBatchImporter
IMMRateExport	通貨レートエクスポート	StandardCurrencyRateBatchExporter

バッチプログラムのパッケージは JAVA で作成されており、すべて「jp.co.intra_mart.system.master.batch」です。

6.1.2 インポート／エクスポート API

インポート／エクスポートプログラムは IM-共通マスタ API の一部として実装されています。インポート／エクスポートの起動は、それぞれデータ領域の API を使用します。

6.1.2.1 インポート/エクスポート処理概要

1. 設定ファイルの解析
2. 同時実行制御ファイル作成
3. インポートターゲットファイルを Application Runtime にコピー
4. インポートターゲットファイルを解析
5. インポート実行
6. インポートターゲットファイルのコピーを削除
7. 同時実行制御ファイル削除

6.1.2.2 API のマネージャからインポート/エクスポートを起動する

インポート/エクスポートはマネージャのメソッドを直接呼び出して実行することもできます。API から実行する方法は付録 A を参照してください。

6.1.2.3 インポート/エクスポートの同時実行防止機能

インポート/エクスポート機能には、インポート/エクスポートが同時に実行されないようにロックする機能があります。インポート/エクスポートの設定ファイルで指定した処理名が同じであり、同じデータ領域に対する処理は同時に実行できません。

インポート/エクスポートが開始されると、Strage Service に同時実行制御用ファイルが作成されます。インポート/エクスポート開始時に制御ファイルが存在しなければインポート/エクスポートが開始されます。すでに存在している場合は、インポート/エクスポートを実行せずに終了します。

作成される制御ファイルのパス

```
%StorageService%/master/%ログイングループコード%/batch/%データ領域%/処理名%
```

制御ファイルは、インポート/エクスポートの成否に関わらず終了後に削除されます。ただし、予期せぬ終了（サーバーダウンなど）をした場合、制御ファイルが削除されずそのまま残ってしまう場合があります。制御ファイルが削除されず残っているままでは、中断したインポート/エクスポートは再実行できなくなります。

その場合は、該当するファイルを手動で削除してください。

6.2 設定ファイル

設定ファイルのフォーマットは、インポート用とエクスポート用の 2 種類あります。

初期データインポートで登録されるバッチでは、すべてのデータ領域で共通の設定ファイルを使用しています。

インポート設定ファイル： %StorageService%/system/im_master/config/import_config.xml

エクスポート設定ファイル： %StorageService%/system/im_master/config/export_config.xml

この設定ファイルはインポート/エクスポートバッチで定義されています。

標準のバッチでは、設定ファイルの場所を変更することができません。設定ファイルの場所を変更したい場合はバッチプログラムを作成するか、API から直接インポートエクスポートを実行する必要があります。

6.2.1 インポート設定ファイル

インポートを実行するための設定ファイルです。インポートの設定項目はインポート機能共通ですが、実行するマネージャ単位で記述する必要があります。

インポート設定ファイルの例(会社グループ)

```
01: <app-master-import>
02:   <company-group-import>
03:     <name>sample_import</name>
04:     <format>XML</format>
05:     <file>im_master/import/data.xml</file>
06:     <directory>im_master/import/data.</directory>
```

```

07:      <start-date>2000-01-01</start-date>
08:      <end-date>2010-01-01</end-date>
09:      <encoding >UTF-8</encoding >
10:      <extension-param name="replace-pattern" >true</extension-param >
11:      <extension-param name="sub-dirs" >false</extension-param >
12:      </company-group-import>
13: </ app-master-import >

```

6.2.1.1 データ領域の指定

インポート設定ファイルのルートは<app-master-import>です。その直下にデータ領域識別要素があり、その中に設定情報を記述します。

指定することができるデータ領域を表 6-3 に示します。

表 6-2 ターゲットバッチ識別要素

バッチ名	データ領域識別要素名
会社グループ	company-group-import
会社組織	company-import
パブリックグループ	public-group-import
プライベートグループ	private-group-import
ユーザ	user-import
法人	corporation-import
取引先	customer-import
品目カテゴリ	item-category-import
品目	item-import
通貨レート	currency-rate-import

6.2.1.2 処理名

インポートの処理名を設定します。

```
03:      <name>sample_import </name>
```

- 処理名で設定した名前は、実行するインポートの固有名です。同名の処理名を持つインポートは同時に実行できません。
- 任意の文字列を指定可能ですが、ファイル名として使用できない文字を使用することはできません。
 - ◆ 使用できない文字列は、Storage Service が稼働している OS に依存します。環境に依存しない英数字、記号の使用を推奨します。

6.2.1.3 インポートファイルのフォーマット

ファイルフォーマットを設定します。

```
04:      <format>XML</format>
```

- CSV または XML を指定します。
- 省略できません。

6.2.1.4 インポートターゲットファイル/ディレクトリ

インポート対象のデータファイルを指定します。

```
05:      <file>im_master/import/data.xml</file>
```

インポート対象のデータファイルがあるディレクトリを指定します。

```
06:      <directory>im_master/import/data.</directory>
```

- ディレクトリ内のすべてのファイルが対象になります。インポートできない形式のファイルがある場合はエラー

一になります。

- ファイルまたはディレクトリは複数指定することができます。
- ファイルまたはディレクトリのいずれかを必ず指定します。両方省略することはできません。
- ファイル要素でディレクトリは指定できず、ディレクトリ要素でファイルを指定することもできません。
- 複数指定した場合、インポートする順番は不定です。
- CSV でインポートする場合、そのデータファイルのエンティティを指定する必要があります。指定方法は 6.2.3 節を参照してください。

6.2.1.5 インポート開始日/インポート終了日

データをインポートする期間を指定します。

```
07: <start-date>2000-01-01</start-date>
08: <end-date>2010-01-01</end-date>
```

- 日付は、『yyyy-MM-dd』形式で指定します。
- 終了日の指定は、+1日を指定します。『データ取得時の基準日<エンティティの終了日』であるため、実際に登録するデータはエンティティの終了日+1日である必要があります。
- 開始日を省略した場合は、インポート開始時点での日付が設定されます。
- 終了日を省略した場合は、システム終了日が設定されます。
- 開始日と終了日、両方省略した場合、インポートデータファイルのフォーマットによって動作が変わります。
 - ◆ XML の場合、システム開始日からシステム終了日までの全期間インポートが実行されます。
 - ◆ CSV の場合、前述したデフォルト日付でスナップショットインポートが実行されます。

6.2.1.6 文字コード

ファイルの文字コードを指定します。

```
09: <encoding >UTF-8</encoding >
```

- CSV 形式でインポートする場合、必須です。
- XML 形式でインポートする場合は、XML ファイルのヘッダで判断します。このパラメータは無視します。
- インポートするデータファイルの文字コードです。Storage Service の文字コードである必要はありません。
- UTF-8 エンコーディングでファイルをインポートする場合、BOM(Byte Order Mark)が付加されない形式をご利用ください。BOM の付加された形式を利用した場合、正常なインポートが行われません。

6.2.1.7 拡張パラメータ

いくつかのパラメータを拡張パラメータとして設定可能になっています。

```
10: <extension-param name="replace-pattern" >true</extension-param >
11: <extension-param name="sub-dirs" >false</extension-param >
```

表 6-3 スタンダードインポートで使用可能な拡張パラメータ

拡張パラメータ名	概要	設定可能な値とデフォルト値
replace-pattern	インポートターゲットのパターン文字列置換を有効にするか？	true or false デフォルト true
sub-dirs	directory で指定したフォルダのサブフォルダもインポート対象とするか？	true or false デフォルト false
with-header	インポートファイルが CSV 形式の時、1 行目をヘッダとして無視するか？	true or false デフォルト false

- 使用できるパターン文字列
 - ◆ %group%
ログイングループコード
 - ◆ %date%
yyyy-MM-dd 形式のインポート実行開始時点での日付

サブディレクトリを対象とする場合、指定したディレクトリより下位にあるファイルを取得し、インポートを実行します。前述のとおり、対象ディレクトリにインポート用ではないファイルが存在した場合エラーとなりますので注意してください。

6.2.2 エクスポート設定ファイル

エクスポートを実行するための設定ファイルです。エクスポートの設定項目はエクスポート機能共通ですが、実行するマネージャ単位で記述する必要があります。

エクスポート設定ファイル例

```

01: <app-master-export>
02:   <company-group-export>
03:     <name>sample_export</name>
04:     <format>XML</format>
05:     <file>im_master/export/data.xml</file>
06:     <date>2099-12-31</date>
07:     <encoding >UTF-8</encoding >
08:     <filter name="company-group">company_group_cd_01</filter >
09:     <extension-param name="replace-pattern" >true</extension-param >
10:     <extension-param name="format-xml" >br|indent</extension-param >
11:   </company-group-export>
12: </ app-master-export >
    
```

6.2.2.1 データ領域の指定

インポート設定ファイルのルートは<app-master-export>です。その直下にデータ領域識別要素があり、その中に設定情報を記述します。

前節のエクスポート設定ファイルの例は、会社グループの設定例です。

指定することができるデータ領域を表 6-4 に示します。

表 6-4 エクスポートターゲット識別要素

バッチ名	データ領域識別要素名
会社グループ	company-group-export
会社組織	company- export
パブリックグループ	public-group- export
プライベートグループ	private-group- export
ユーザ	user- export
法人	corporation- export
取引先	customer- export
品目カテゴリ	item-category- export
品目	item- export
通貨レート	currency-rate- export

6.2.2.2 処理名

エクスポートの処理名を設定します。

```

03:   <name>sample_export</name>
    
```

- 同名の処理名を持つエクスポートは同時に実行できません。

- 任意の文字列を指定可能ですが、ファイル名として使用できない文字を使用することはできません。
- ◆ 使用できない文字列は、Storage Service が稼働している OS に依存します。環境に依存しない英数字、記号の使用を推奨します。

6.2.2.3 エクスポートファイルのフォーマット

ファイルフォーマットを設定します。

```
04: <format>XML</format>
```

- CSV または XML を指定します。
- 省略できません。

6.2.2.4 エクスポートターゲットファイル

出力先ファイルを指定します。

```
05: <file>im_master/export/data.xml</file>
```

- 拡張子を含めて指定してください。
- ディレクトリは指定できません。
- 省略できません。
- 複数指定することもできますが、内容はすべて同じものを出力します。
- CSV でエクスポートする場合、そのデータファイルのエンティティを指定する必要があります。指定方法は 6.2.3 節を参照してください。

6.2.2.5 エクスポート基準日

基準日のスナップショットをエクスポートします。

```
06: <date>2099-12-31</date>
```

- 省略した場合、インポートデータファイルのフォーマットによって動作が変わります。
 - ◆ CSV の場合、エクスポート開始時点での日付でスナップショットエクスポートが実行されます。
 - ◆ XML の場合、全期間エクスポートが実行されます。

6.2.2.6 文字コード

出力する文字コードです。

```
07: <encoding >UTF-8</encoding >
```

- 省略できません。
- 任意の文字コードを指定することができます。サーバの文字コードである必要はありません。
- XML フォーマットで出力時、XML ヘッダにもこの文字コード指定を出力します。

6.2.2.7 出力フィルタ

エクスポートするデータをフィルタリングすることができます。

```
08: <filter name="company-group">company_group_cd_01</filter >
```

下表のフィルタ対象となるデータを1つ選びます。選んだデータに関連するデータのみが出力対象になります。

表 6-5 フィルタリング対象

データ領域	フィルタ対象	name属性
会社グループ	会社グループセット	company-group-set
会社組織	会社	company
パブリックグループ	パブリックグループセット	public-group-set

プライベートグループ	オーナーユーザ	user
ユーザ	ユーザ	user
法人	法人セット	corporation-set
取引先	会社	company
品目カテゴリ	品目カテゴリセット	item-category-set
品目	会社	company
通貨レート	なし	なし

6.2.2.8 拡張パラメータ

いくつかのパラメータを拡張パラメータとして設定可能になっています。

```
09: <extension-param name="replace-pattern" >true</extension-param >
10: <extension-param name="format-xml" >br|indent</extension-param >
```

表 6-6 スタンダードエクスポートで使用できる拡張パラメータ

拡張パラメータ名	概要	設定可能な値とデフォルト値
replace-pattern	エクスポートターゲットのパターン文字列置換を有効にするか？	true or false デフォルト true
format-xml	XML 出力時の整形方法を指定する。	br:改行を入れる indent:字下げを入れる trim:前後の空白を取り除く 複数指定は" "で連結することが可能 デフォルト:"br"
with-header	CSV でエクスポートするとき、1 行目にヘッダを出力するか？	true or false デフォルト false
export-term-cd	XML 出力時、期間コードを出力するか？	true or false デフォルト false

- 使用できるパターン文字列
 - ◆ %group%
ログイングループコード
 - ◆ %date%
yyyy-MM-dd 形式の、インポート実行開始時点での日付
- 期間コードを出力することが可能ですが、インポートでは使用しません。参照専用の項目です。

6.2.3 CSV でのデータファイル指定方法

インポート/エクスポートは、データ領域単位で実行しますが、CSV ファイルにいくつかのエンティティを一括して入出力できません。インポート/エクスポートのデータファイルが、どのエンティティのものなのか指定する必要があります。この節では、CSV がどのエンティティの規則に従って作成されているのかを指定する方法を解説します。

設定ファイル内のファイル要素、またはディレクトリ要素の属性に **type** を設定することができます。

各エンティティに固有の **type** が割り当てられています。指定しなかった場合、あるいは定義されていない文字列を指定した場合は無視されます。

ディレクトリ要素でデータファイルを指定した場合は、そのディレクトリ内のファイルすべてがそのエンティティのデータファイルであるとしてインポートを実行します。同一ディレクトリ内に別エンティティのデータファイルを置くことはできません。

```
05: <file type="department">im_master/import/data.csv</file>
```

表 6-7 type に指定できるもの

データ領域	エンティティ	指定する文字列
会社グループ	会社グループ	company-group
	会社グループ内包	inclusion
	会社グループ所属	attach-company
会社・組織	組織	department
	組織内包	inclusion
	役職	post
	組織所属/組織所属役職	attach-user
	組織分類	category
	組織分類項目	item
	組織分類所属	attach-item
パブリックグループ	パブリックグループ	public-group
	パブリックグループ内包	inclusion
	役割	role
	パブリックグループ所属/所属役割	attach-user
	パブリックグループ分類	category
	パブリックグループ分類項目	item
	パブリックグループ分類所属	attach-item
プライベートグループ	プライベートグループ	private-group
	プライベートグループ所属	attach-user
ユーザ	ユーザ	user
	ユーザ分類	category
	ユーザ分類項目	item
	ユーザ分類所属	attach-item
法人	法人	corporation
	法人内包	inclusion
	法人所属	attach-customer
取引先	取引先	customer
品目	品目	item
品目カテゴリ	品目カテゴリ	item-category
	品目カテゴリ内包	inclusion
	品目カテゴリ所属	attach-item
通貨レート	通貨レート	currency-rate

7 (付録) IM-共通マスタ API から実行する

インポート／エクスポートは、API のメソッドとして用意されています。

初期データインポートで登録される各バッチファイルは、この API を実行しています。

この章では、API からインポート／エクスポートを実行する方法を解説します。

- プログラムの一部としてインポート／エクスポートをしたい。
- 設定ファイルを使い分けたい。
- plugin.xml でカテゴリを standard 以外に設定したインポート／エクスポートを実行したい。

この場合は、API を実行するプログラムを作成して実行することができます。

API からインポートを実行する場合、トランザクション処理を実装する必要があります。

トランザクションを開始せずにインポートを実行した場合、オートコミットモードで実行されます。この場合、インポートが予期せぬ中断がされた場合にマスタデータの整合性が壊れる恐れがあります。必ずトランザクションを実装し、中断された場合はロールバックするようにしてください。

リスト 7-1 サンプルプログラム

```
01: String categoryName = "standard";
02: String updateUserCd = "system";
03: String loginGroupCd = arg0.getProperty("group");
04: String networkFilePath = "system/im_master/config/import_config.xml";
05: Locale defaultLocale;= AccessSecurityManager.getInstance().getSessionInfo().getLocale();
06:
07: NetworkFile netFile = new NetworkFile(networkFilePath);
08: ByteArrayInputStream stream = new ByteArrayInputStream(netFile.load());
09:
10: ompanyManager manager = new CompanyManager(updateUserCd, defaultLocale, loginGroupCd);
11: manager.importData(categoryName, stream);
```

(例外、トランザクション処理は割愛しています。)

7 行目 Storage Service から設定ファイルを取得しています。インポートデータファイルではありませんので注意してください。

8 行目 読み込んだバイト配列で `InputStream` を作成しています。これがインポートするマネージャの引数の 1 つとなります。

11 行目 インポートを実行します。一つ目の引数 `categoryName` は、plugin.xml で設定したカテゴリ名です。作成済みの `InputStream` を一緒に実行メソッドに渡しています。

この処理を実行するとインポートが開始されます。

intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver. 7.2
IM-共通マスタ インポート・エクスポート仕様書

2014/08/29 第6版

Copyright 2000-2014 株式会社NTTデータ イントラマート
All rights Reserved.

TEL: 03-5549-2821

FAX: 03-5549-2816

E-MAIL: info@intra-mart.jp

URL: <http://www.intra-mart.jp/>